



碧の風

千葉市立川戸中学校
校報 第6号
令和5年10月19日

前期から後期へ

校長 板垣 章子

30℃超えの気温が一気に10℃台まで下がり、秋が深まっていくことを実感する季節になりました。

10月は、秋休みを挟んで前期から後期に移行する、大切な節目の月となります。前期最終日や後期始業日には、体育館において、生徒会役員や専門委員長の引継ぎ、学年代表生徒による「前期の振り返り」や「後期への抱負」のスピーチが行われました。また生徒会前期役員からは、制服等学校ルールの見直しに関し、後期から試行することについての説明がありました。「多様性の視点から男女問わずスラックスとスカートを自由に選択できる」ということを、実演を兼ねて堂々と伝えていました。さらに、さまざまな分野で活躍した生徒たちの賞状伝達が行われ、千葉市英語発表会に出場した生徒による英語スピーチ、発明工夫作品の世界大会にエントリーしている生徒の動画の披露もありました。身近な仲間がそれぞれに頑張っている姿に圧倒されつつも、刺激しあい、称賛しあう時間は、学校目標の「進んで考え みんなで育つ」につながる有意義なものとなりました。

後期始業に際し、私からは、「目標をうまく立てられない人は、自分のためではなく、『自分以外のために』と視点を試してみよう」という話をしました。「自分のため」よりも「誰かのために」「世の中のために」などという外向きの思考の方が、力を発揮しやすい人もいます。実際に大人になったときには、そのような気持ちが、よい仕事を生み出したり、温かい家庭や友好的な人間関係づくりにつながったりします。そしてそれは、自分自身の豊かな人生を築くことにもつながることでしょう。そのような思いを伝えました。

秋休みの真ん中の10月8日には、スポーツ振興会主催による「川戸小学校地区スポーツ祭」が中学校のグラウンドで行われました。本校からも、30人以上の生徒がボランティアとして参加しました。4年ぶりの開催ということでしたが、自治会ごとのテントが立ち並び、楽しそうな笑顔があちらこちらに輝いていました。まさに「誰かのため」という気持ちの連鎖が幸せを誘い入れ、さわやかな秋風とともに川戸の町を吹き抜けた一日でした。



秋の夕陽を受ける放課後の校舎。
一瞬のうちに、日が暮れていきます。